

4 月 16 日 (日) に行われた平成 29 年春期の情報処理技術者試験について、基本情報技術者試験の合格発表がありました。試験に関する統計データをもとに、全体の得点分布と合格率関連の情報をお知らせします。

■基本情報技術者試験(FE)

[平成 29 年春期の基本情報技術者試験 統計情報]

応募者	67,784 人
受験者	48,875 人
合格者	10,975 人
合格率	22.5%

試験結果は合格率が 22.5%で、前回平成 28 年秋の 23.6%よりもやや下がりました。なお、前々回の平成 28 年春が 30.4%と非常に高い合格率でしたが、今回は平成 21 年に現在の試験制度になってからの結果としては低めといえます。問題の難易度について、午前試験は前回よりも難しいと思われる問題がやや多かったといえます。

次に、午後試験の必須問題は、情報セキュリティが普通レベル、アルゴリズムの問題が数値の編集処理で普通(一部やや難)レベルの内容でしたが、全体としては前回試験と同じレベルだったと思われます。

今回の試験の傾向や特徴を少し細かい内容でまとめると、次のようになります。

[午前問題]

- ・今回の分野出題数は前回同様、テクノロジーが 50 問、マネジメントが 10 問、ストラテジが 20 問でした。
- ・過去問題の比率は今回も多く、全体の 6 割になっています。基本情報の過去問は 31 問ありました。また、応用情報の過去問が 13 問(前回 16 問)あり、少し難しい問題も含まれていました
- ・新傾向の問題は今回増え 15 問ありました。個々の問題としては前回よりも少し難しい問題が目につき、全体としては前回よりも少し難しかったと思われます。

問 11 RAID1 構成で必要な磁気記憶装置台数

問 12 スケールアウトが適しているシステム

問 17 バッファサイズを表す関係式

問 21 変形を感知するセンサ

問 27 ソートマージ結合法に関する記述

問 34 IPv4 アドレス 128.0.0.0 を含むアドレスクラス

問 35 OpenFlow を使った SDN の説明

問 36 DNS キャッシュサーバに対する攻撃

問 39 サイバーセキュリティ経営ガイドラインで確認すべきとされている対策

問 41 タイムスタンプサービス

問 54 トレンドチャート

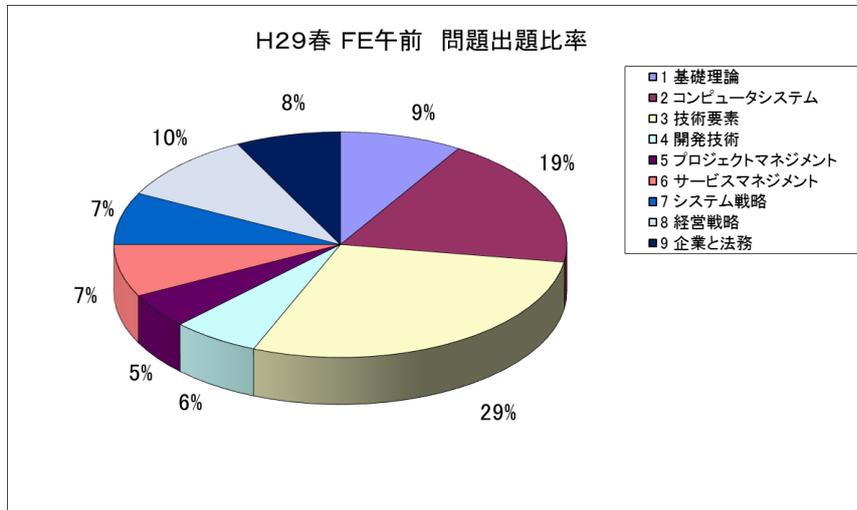
問 63 ホスティングサービスの特徴

問 69 既存市場に対して既存製品で事業を拡大する戦略

問 74 アフィリエイトプログラムのモデル例

問 75 ファシリテータの役割

平成 29 年春期の基本情報技術者試験



(テクノロジー分野: 1~4, マネジメント分野: 5~6, ストラテジ分野: 7~9)

出題が強化されたセキュリティ分野の出題数はここ数回と同様 10 問でした。セキュリティに関しては新しい話題も日頃から理解するように心がけてください。また、午後試験で必須となったセキュリティ問題を解答するのに必ず必要な知識と考えて、最近の出題内容を確実に理解しておく必要があります。

〔午後問題〕

問 1 の情報セキュリティが必須、問 2~7 の知識の応用問題から 4 問選択、問 8 のアルゴリズムが必須、問 9~13 のプログラミングの問題から 1 問選択という形式です。今回出題された午後試験問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。

問	テーマ	出題分野	難易度
1	ファイルの安全な受渡し	情報セキュリティ (必須)	普通
2	温度モニタ	ハードウェア	普通
3	住民からの問合せに回答するためのデータベース	データベース	やや難
4	無線 LAN におけるデータの送信	ネットワーク	やや易
5	購買システムにおける注文書出力処理	ソフトウェア設計	普通
6	プロジェクトの要員計画	プロジェクトマネジメント	やや難
7	在庫補充方法の変更	システム戦略	普通
8	最短経路の探索	データ構造及びアルゴリズム	普通
9	マーク式試験の答案の採点	ソフトウェア開発 (C)	普通
10	売上集計	ソフトウェア開発 (COBOL)	普通
11	電気料金プランの比較	ソフトウェア開発 (Java)	普通
12	多倍長演算 (64 ビット加算, 32 ビット乗算)	ソフトウェア開発 (アセンブラ)	普通
13	宅配便の料金計算	ソフトウェア開発 (表計算)	やや難

必須問題の情報セキュリティの出題内容はファイルの安全な受け渡しに関する暗号化の知識や費用計算を含むマネジメント寄りの問題でした。問 2～問 4 は、前回と同じ出題分野、ハードウェア、データベース、ネットワークのテーマで出題され、ソフトウェアの出題は今回ありませんでした。問 3 のデータベースは制約関連の出題がありやや難しい内容といえます。問 5 のソフトウェア設計の問題はプログラム設計の内容でした。問 6 のマネジメント分野の問題はプロジェクトマネジメントの要員管理に関する問題で、前回まで 4 回連続してプロジェクトマネジメントの問題だったため、今回サービスマネジメントの出題が予測されましたが、5 回連続の出題となりました。問 7 はシステム戦略の問題で、過去に類似の内容で出題されたことがある在庫管理の問題です。

問 8 のアルゴリズム問題は、最短経路を求める問題で、過去に類似の出題がありましたが、プログラム仕様が少し複雑で、アルゴリズム自体の難解さは少ないのですが、やや複雑でトレース力が問われる問題だったといえます。

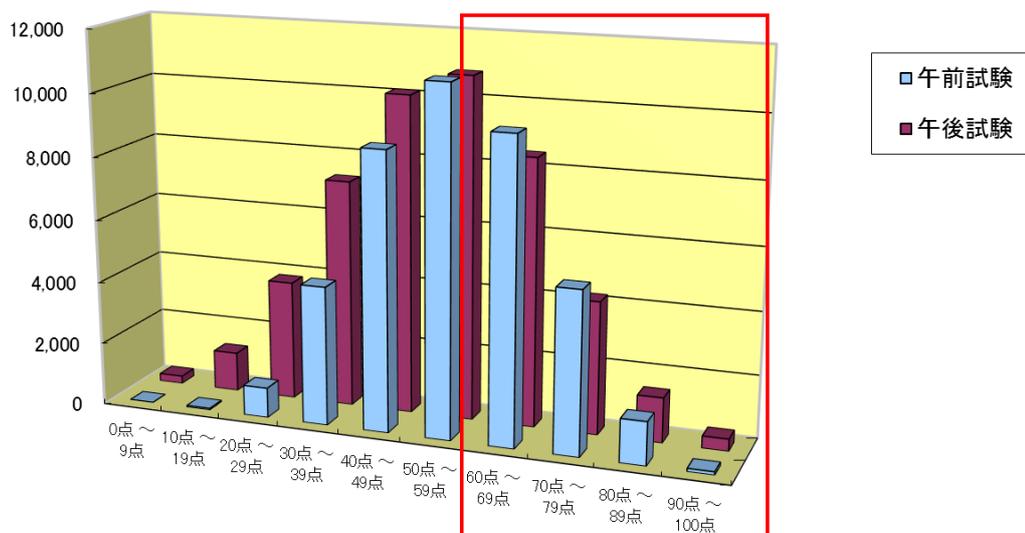
問 9 からのプログラム言語の問題では、表計算が例年よりもやや難しく、他の C, COBOL, Java, アセンブラの問題は標準的な難易度でした。

試験センターから発表された基本情報技術者試験の得点分布をグラフと合わせて示すと、次のようになります。なお、午後試験の受験者数が午前試験よりも 6,587 人多いことから、教育機関で所定の学習を修了し午前試験免除で受験した方がおおよそこの人数いたと考えられます。

〔平成 29 年春期 統計情報(基本情報 得点分布)〕

得点	午前試験	午後試験
0 点 ～ 9 点	8	243
10 点 ～ 19 点	48	1,258
20 点 ～ 29 点	959	3,818
30 点 ～ 39 点	4,424	7,262
40 点 ～ 49 点	8,821	10,105
50 点 ～ 59 点	10,948	10,814
60 点 ～ 69 点	9,584	8,475
70 点 ～ 79 点	5,153	4,221
80 点 ～ 89 点	1,377	1,431
90 点 ～ 100 点	100	382
計	41,422	48,009
午前と午後の差	(午前免除者予測)	6,587
合格者数	10,975	合格者数との差
午前 60 点以上合計	16,214	5,239
午後 60 点以上合計	14,509	3,534

平成29年春 統計情報（基本情報技術者試験 得点分布）



今回の結果を少し詳しく分析すると、午前試験で合格基準点の60点以上の人は16,214人で、受験者の39.1%（前回は40.2%）で前回よりも1%ほど下がっています。また、午後試験が基準の60点以上だった人は14,509人（午後試験受験者の30.2%）いて、前回の30.2%と同じ結果でした。今回は、午前試験の得点が低かったことがうかがえます。

ここで、午前試験であと10点足りなかった人（得点50～59点）が10,948人で全体の26.4%ですが、前回の23.9%よりも増えています。また、午後試験であと10点足りなかった人は10,814人で全体の22.5%ですが、こちらは前回の22.3%とほぼ同じです。午前試験の得点がやや低かったことがこの結果からも分かります。

このように“あと一步”の人が多くことから、午前試験では仕上げの学習を確実にやりしかり知識を定着させる必要があります。また、午後試験では、まずは午前の試験で出題される知識を確実に理解すること、次に問題演習する際には15分～30分という標準解答時間中は、仮に分からないところがあっても考え続ける力を養うこと、そして、模擬試験を受験してアルゴリズムやプログラム言語問題を解くときに、解答時間の調整に慣れるなど、実戦的な力を身に付けることが重要です。

(今回合格された人)

今回見事合格された方は、ステップアップした IT スキル標準レベル3の応用情報技術者試験にチャレンジしましょう。試験難易度が一段上がります。

基本情報技術者試験の内容がベースになりますので、苦手分野や今回解けなかった問題などを中心に、まず「コンピュータシステムの基礎」のテキストでチェックし、今まで読み飛ばしていたところや苦手意識のある内容も含めて、再度学習することが大切です。

応用情報技術者試験を初めて受験する方には、基礎から段階的に知識の積み上げができる通信教育がおすすめです。

書籍、eラーニング（WEB 教材・WEB テスト）、公開模試の初学者でも合格のために必要な全てをセットにしたブレンド学習コース「プレミアムコース」なら、試験範囲全体を短期間で万遍なく学習することが可能です。

その他、学習にあたっては、通信教育や書籍以外にも、午前試験対策に重点をおいた「宿題メール」。受験対策のプロ講師が応用情報技術者の試験対策セミナーを行う「午後対策セミナー 合格ゼミ」など、学習アイテムを豊富に取り揃えております。

通信教育に午前試験対策の「宿題メール」を追加するなど組合せは自由自在なので、自身の弱点分野を克服しつつ次のステップアップを目指しましょう。

(今回残念ながら不合格だった人)

今回の午前および午後試験の得点が 50 点～59 点だった人は、合格ラインまで“あと一步”のところまで実力がついていきますので、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策を始めましょう。50 点未満だった人は、基礎的な知識の理解が不十分ですので、「コンピュータシステムの基礎」などの基礎テキストで基礎知識をしっかりと学習し直す必要があります。午後試験ではプログラム言語に加えて表計算ソフトの問題も出題されています。プログラム言語が苦手な方は表計算ソフトで受験することも検討してみてください。この表計算ソフトについては、マクロに関する問題も出題されており、処理の考え方（アルゴリズム）の要素も加わっています。再受験される方には、午前試験対策はポイント確認とトレーニング問題、午後試験対策は重要ポイントを音声・スライドで解説などの充実した弱点補強に最適な演習型 eラーニングコース「プラクティスコース」や、本番と同じ条件（出題形式・出題数・試験時間）で実施される模擬試験を受験し、ベテラン講師による採点評価で自身の弱点を把握することができる「全国統一公開模試」などがおすすめです。午前試験対策の「宿題メール」、午後試験対策の「合格ゼミ」などを組み合わせれば、さらに合格へと近づくことができるでしょう。

不足している知識や分野ごとに組み合わせで補強して次回合格を勝ち取りましょう。

次回の情報処理技術者試験に向けた試験対策は弊社のオンラインストアをご覧ください。

[\(https://www.itec.co.jp/store/\)](https://www.itec.co.jp/store/)